

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------|----|--|--|-------------------------|--|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 【 I 理念に基づく運営】 | | | | | |
| 1. 理念の共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 事業開始にあたって、事業所職員が地域密着型サービスの概念のもとに、独自の理念を作りあげた。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念を掲示し、全体ミーティングの際に読上げ、日々の実践に取り組んでいる。また、職員証にも理念を記載している。 | ○ | 職員が各自出勤時に読み上げ、さらに理念の理解・周知徹底に努めたい。 |
| 3 | — | ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | 見やすい場所に理念を掲示するとともに、家族会・運営推進会議、面談の際に説明をしている。 | ○ | まりしふれ愛祭り等の機会を利用して、地域の皆様に理解してもらえるよう取り組んでいきたい。 |
| 2. 地域との支え合い | | | | | |
| 4 | — | ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 買い物、散歩等で近隣の方と会った際は、声をかけ、挨拶するよう努めている。 | | |
| 5 | 3 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 運営推進会議において、地域の行事・活動予定の紹介を受け、参加を検討している。 | | |
| 6 | — | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 運営推進会議等の際に認知症についての講演を実施して、地域に向けての情報発信を行っている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|---|--|-------------------------|-----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 7 | 4 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 全体ミーティング等の場で周知徹底を図り理解を深めている。 | | |
| 8 | 5 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回実施し、事業所から報告を行なうと共に、出席者から意見・要望を聞いてサービス向上に活かしている。 | | |
| 9 | 6 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市担当者と密に連携を図り、積極的な情報提供を行い、その情報を共有することで、課題解決に向けた協働を行っている。 | | |
| 10 | 7 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 積極的に講演会に参加し理解を深めているが、現在、成年後見人を必要とする対象者がいない。 | | |
| 11 | — | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 講習会等に参加し知識を得ると共に、全職員に周知徹底を図っている。また入浴時等の観察や利用者の様子から発見・防止に努めている。 | ○ | 虐待がないように注意を払い、防止に努め、さらに学ぶ機会を作りたい。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 12 | — | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項にあわせて十分に説明し、納得・同意を得ている。また質問などには随時応じている。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------|----|---|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 13 | — | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者に対して、ゆっくりした時間を作り、 一人ひとりに対し声かけし、一緒に作業しな がら、意見が表せるような機会を設け、反映 させている。また契約書などで、外部の苦情 相談窓口をお知らせしている。 | | |
| 14 | 8 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる | 家族が定期的に面会に来られるので、その際 に報告したり、電話で報告したりしている。 また家族会でも普段の暮らしぶりなどを報告 している。 | | |
| 15 | 9 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会・運営推進会議の場で、家族から意見 を聴く機会を設けている。また家族等が面会 に来た際にコミュニケーションを図り、意 見・不満等を汲み取るよう努めている。さら に契約書などで、外部の苦情相談窓口をお知 らせしている。 | | |
| 16 | — | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている | 月1回のミーティングを行い、休憩時間等 にも相談を受けている。また定期的に面談を 行っている。 | | |
| 17 | — | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている | 職員の休みの希望をできるだけ尊重し、一方 で利用者が生活を楽しめるように、勤務を調 整している。 | | |
| 18 | 10 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員が異動する1ヶ月前には新しい職員を配 置し、切れ目の無い介護の確保に努めてい る。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|----|---|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 19 | 11 | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 公正採用選考人権研修等の講習会に参加し、その研修内容を職場に反映することで、職員が安心して働ける環境づくりに努めている。 | | |
| 20 | 12 | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 市や保健所の人権問題に関する講習会に参加し、その研修内容を勉強会等において職員に周知徹底している。 | | |
| 21 | 13 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 採用に際して内部研修を行うと共に、外部施設への研修も行っている。また一定の期間を設けて、職員が働きながらトレーニングできるよう配慮している。 | | |
| 22 | 14 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域密着型サービス連絡協議会等において交流を深めている。また、勉強会の誘い等、相互の特色を活かしてスキルアップを図っている。 | | |
| 23 | — | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | お茶やタバコ等の休憩時間の確保に努めている。また定期的に面談を行い、職員のストレスを軽減するための環境づくりに反映するよう努めている。 | | |
| 24 | — | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 勤務の調整にあたって個人の希望を尊重している。また労働基準法や労働安全衛生法に則って、職員の労働条件や心身の健康を保つための対応を行っている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 25 | — | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 事前面談を重ねて本人の状況を把握するように努めている。また申込書にも詳しく記載してもらい、現状把握を行っている。 | | |
| 26 | — | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 本人同様、事前面談を重ねて家族の状況を把握するように努め、申込書にも詳しく記載してもらい、現状把握を行っている。 | | |
| 27 | — | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談を受けた際に提供可能なサービス内容を具体的に説明し、地域密着型サービス以外の介護サービスとの比較も説明している。 | | |
| 28 | 15 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 見学・説明の際に他の入居者と一緒に過ごす時間を設けたりしながら、少しずつ馴染んでいける環境づくりに努めている。また入居する際も家族等と相談し本人の負担にならないよう配慮している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 29 | 16 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 介護する・介護されるという関係ではなく、共に支えあう関係を築く努力をしている。また、お互いの思いを共感し合えるよう利用者へ相談の形をとったり、お互いが必要な存在であることを伝え、コミュニケーションを図っている。 | | |
| 30 | — | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 家族会等において家族との連携を図り、家族と事業所お互いが支え合う存在であることを認識してもらうよう取り組んでいる。また家族とよく話し合い、お互いの介護に対する方針を統一している。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|--|---|-------------------------|--|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 31 | — | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 家族との関係がより良くなる様、常に家族の方の事を心に留めている。また、面会・電話の際には、現在の本人の様子を伝えるようにしている。 | | |
| 32 | — | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会時に関係が途切れないように気配りをしている。場合によっては会話に入り、昔の様子等を伺うように心がけ、関係の継続に繋げていく支援をしている。 | | |
| 33 | — | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている | 利用者がお互いに良い関係を築けるように橋渡しをしている。また世話役を作り、孤立しないように見守り・気遣い・心配りをして、個性をうまく生かす配慮をしている。 | | |
| 34 | — | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 利用終了後も本人・家族と連携を取りながら、必要な情報を発信するよう努めている。 | | |
| 【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】 | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 35 | 17 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 申込書や日々の様子の観察から、本人のできること・分かることの把握に努めている。また、これまでの生活史を大切にし、その人らしく過ごせるよう支援をしている。 | ○ | 一人ひとりの心の中に入っていくケアに心がけ、一日一日を楽しく本人の思いに近づける支援をしていきたい。 |
| 36 | — | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 申込書に現在の本人・家族の状況を詳しく記載してもらい、現状の把握に努めている。また利用開始前に家族・ケアマネージャー等から情報を聴き、サービス開始後も普段の会話から情報収集に努めている。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|----|---|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 37 | — | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 一人ひとりの1日の生活リズムに添って支援し、できること・できないことを把握し、できることを一緒に行っていくように取り組んでいる。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 38 | 18 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人・家族の意向を把握し計画作成担当者と担当職員が協議しながら介護計画を作成している。また日々の様子を各職員から聴き、介護計画に反映させている。 | | |
| 39 | 19 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 基本的に3ヶ月に1回程度、介護計画の見直しを予定しているが、本人・家族の状況に応じて柔軟に見直し、再作成を行っている。 | | |
| 40 | — | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者それぞれにとって、重要な支援を項目としてあげ、毎日の介護記録をとりながら、日々の変化に気づくように心がけている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 41 | 20 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 医療連携体制を活かして、利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続、重度化した場合や終末期の入院の回避に努めている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 42 | — | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 近隣の小・中学校や高等学校の行事を見学したり、芸術鑑賞等で文化施設を活用している。また運営推進会議等において、民生委員など地域の方々に協力を要請している。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------|----|--|---|-------------------------|--|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 43 | — | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている | 他のサービス利用の必要性が生じた場合は、他のケアマネージャーやサービス事業者に情報を引き継ぎ、サービスが途切れないように支援している。 | | |
| 44 | — | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 利用者の紹介を受けたことはあるが利用に至らず、現在は十分に協働しているとは言い難い。 | ○ | 地域包括支援センター等と協働し、徘徊SOSネットワークの構築に向けて取り組んでいきたい。 |
| 45 | 21 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人・家族の了承を得て、かかりつけ医の受診には定期的に同行し、情報交換を行いながら支援している。 | | |
| 46 | — | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 認知症に詳しく、本人・家族にとって頼りになる医師を確保している。また適切な助言や指導を受け、薬・医療の助言・相談を受けている。 | | |
| 47 | — | ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 常勤の看護職員を配置し対応している。また協力医療機関の看護師と密に連携を取り、医療・看護の支援ができる体制を整えている。 | | |
| 48 | — | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 病院と密に連携を取り、入院時には十分な情報提供を行っている。また入院中においても情報収集に努め、早期退院に向けた働きかけをしている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|----|--|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 49 | 22 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 本人の状態に変化が生じた段階で本人・家族の意向を聴き、主治医等と相談し全員で方針を共有するように努めている。 | | |
| 50 | — | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 事業所として「できること・できないこと」を見極め、家族や主治医等と連携を図りながら支援している。同時に他利用者への影響も考慮した対応を行なっている。 | | |
| 51 | — | ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 他の施設に移り住む際には、家族の了承を得た上で情報交換を行っている。また可能な限り事前面接に同席し、十分な情報伝達ができるように努めている。 | | |
| 【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 52 | 23 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 常日頃から、利用者の尊厳を大切にしている。また個人情報保護についての教育を行い、職員が理解している。 | | |
| 53 | — | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 入居者の自己決定を第一に考え、利用者の方に寄り添う介護・支援をしている。 | | |
| 54 | 24 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個々の体調や精神状態に配慮し、利用者の居心地の良い環境づくりを行い、一人ひとりのペースに合わせたケアを行なっている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 55 | — | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 家族と共に理・美容院に行けるように働きかけている。また希望に応じて化粧やマニキュア等おしゃれをする機会を設けている。 | | |
| 56 | 25 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けを行っている。また、それぞれの食べる力に応じた形態の食事を提供することで誰もが食事を楽しめるようにしている。 | | |
| 57 | — | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | お酒・たばこ等は医師に確認を取り、希望があれば提供している。また飲み物・おやつ等も本人の希望に沿って習慣・嗜好に合わせたものを提供している。その際には本人以外の入居者の配慮も十分に行なっている。 | | |
| 58 | — | ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 排泄リズムを把握することで、失禁やオムツ使用量を減らすと同時に、排泄の失敗による不快感の軽減や清潔の確保に努めている。 | | |
| 59 | 26 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 本人の希望を優先し、一人ひとりゆっくりと入浴できる支援を行っている。 | | |
| 60 | — | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 一人ひとりの生活リズムを把握し、場合によっては家族・医師等と相談して睡眠や食事、薬剤のあり方について全体的な調整に努めている。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|--|--|-------------------------|---|
| 自己 | 外部 | | | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 61 | 27 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 普段の会話の中から本人のできること・楽しみ等を把握し、一人ひとりの気持ちや力を活かした場面作りに努めている。 | | |
| 62 | — | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 所持したり、使えるように支援していきたい。 | ○ | お金の大切さを十分理解し、使いたい気持ちが伝わってくるため、お金を使うことでの安心感・満足感を味わってほしい。 |
| 63 | 28 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 天候や健康状態を考慮して散歩等の外出を行っている。 | ○ | 職員本位になりがちなので、利用者本位の外出支援にしていきたい。 |
| 64 | — | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 花見・芸術鑑賞等、外出行事を積極的に行っている。また本人の希望に応じて柔軟な外出支援を行っている。 | ○ | 職員本位になりがちなので、利用者本位の外出支援にしていきたい。 |
| 65 | — | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望があれば、家族等に確認した上で、プライバシーに配慮しながら本人が電話できるように支援している。 | | |
| 66 | — | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している | 本人と家族等とのつながりを大事にしているため、いつでも気軽に訪問できる雰囲気作りに努めている。また希望があれば食事が提供できる体制を整えている。 | | |

| 項目番号 | | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|----|---|---|-------------------------|--|
| 自己 | 外部 | | | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 67 | — | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 人権を守るケアにおいて、身体拘束禁止の理解を全職員が認識しているため、身体拘束は行っていない。 | | |
| 68 | 29 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 鍵をかけないケアがベストだが、危険防止のため、鍵をかけている。鍵をかけず監視するよりは、玄関を出たらエレベーター・階段になっているため、危険防止として鍵をかけていることを家族・入居者の方へ説明している。 | ○ | 入居者一人ひとりの外出のくせや傾向を把握し、出て行く気配を職員が見落とさない見守りができるように取り組んでいきたい。 |
| 69 | — | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | プライバシーに配慮しながら、声かけ・目配り・気配りにより所在・安全確認を行なっている。 | | |
| 70 | — | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 使用に際して、注意が必要な物品の保管・管理は、容易に扱えないように整理整頓している。また、できる力を見極めて、その残存能力を活かすケアに取り組んでいる。 | | |
| 71 | — | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 事故防止の方法を学び、共有し、ヒヤリ・ハット・事故報告書などの記録を行い、常日頃より事故防止に取り組んでいる。 | | |
| 72 | — | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 急変や事故発生時の対処方法、救命救急法等の学習や訓練を定期的に行っている。また夜間等人手が少ないときの応急手当から、その後の連絡、対応方法についても想定し、それらを職員が身につけている。 | ○ | 全職員が対応できるように、研修・訓練を行ってほしい。 |

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|----|--|---|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 73 | 30 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 火災予防のための注意事項を事務所に貼り出したり、防災訓練等を行ったりすることで、職員の防災意識を高める取り組みを行っている。 | | |
| 74 | — | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 本人の能力を活かしたケアを実施する上で想定されるリスクを説明し、十分な協議を重ねて、同意を得た上で支援している。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 75 | — | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 日ごろの表情や排泄・入浴時の状態の観察・バイタルチェック等により変化の発見に努めている。また気付いた際には、病院と連携し速やかな対応をとっている。 | | |
| 76 | — | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の副作用と必要性についての理解を深めている。また服薬確認は、1人で行なわないで、複数の職員で一緒に行なうように徹底している。 | | |
| 77 | — | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 水分摂取を促し、チェック表にて摂取量を把握している。また、なるべく薬に頼らずに、自然排便できるように心がけたケアを行なっている。 | | |
| 78 | — | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後の歯磨き、口腔・舌の状態の観察を行なっている。さらに発声、口、顔の運動の支援も行っている。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|---|---|-------------------------|--|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 79 | 31 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日の食事摂取量・水分摂取量をチェックし、その人に合った食事量の提供、及び水分摂取の促しを行っている。また月1回の体重測定・病院との情報共有等を行い、常に状態の把握に努めている。 | | |
| 80 | — | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 手洗い・うがいを徹底している。また研修、勉強会への参加により、予防対策の知識・技術についての勉強・情報収集に努めている。 | | |
| 81 | — | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 手洗いの徹底、冷蔵庫の清潔、フキン・まな板の消毒、冷蔵庫の整理等を行い、衛生管理に努めている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 82 | — | ○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 東屋や花壇など近隣の人にも開放したスペースがあり、親しみやすい環境づくりに努めている。 | ○ | 東屋で利用者と近隣の方が一緒にお茶を飲んだり、話をしたりする機会を作りたい。 |
| 83 | 32 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 一人ひとりの感覚・価値観を大切にし、自宅での生活と同じように、家庭的な雰囲気・馴染みのものに囲まれた生活を送れるよう支援している。 | | |
| 84 | — | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 利用者それぞれの居場所を作り、各々の時間を過ごすことができるように支援している。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで いきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|---|--|-------------------------|----------------------------------|
| 自己 | 外部 | | | | |
| 85 | 33 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みの物を活かし、家族と共に生活の場としての支援を行っている。 | | |
| 86 | — | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 外気温との調整、室内の温度、換気等、常に気を配っている。また温度調整は本人の希望にも配慮しながら状況に応じた設定にしている。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | | |
| 87 | — | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全に暮らせる環境づくりを行いながら、常に行動を抑制しないように注意し、活動性を維持する生活の場として支援している。 | | |
| 88 | — | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 見やすい場所に日めくりカレンダーや時計を設置するなど、自立した生活を送るための環境づくりに取り組んでいる。 | | |
| 89 | — | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 屋上また回廊式のベランダがあるので、屋上をリフレッシュの場として、ベランダを散歩コース・軽食・昼食・家族との憩いの場として活用している。 | | |

| 項目番号 | | 項 目 | 取 り 組 み の 成 果 | |
|------------------------|----|--|------------------|--------------|
| 自己 | 外部 | | (該当する箇所を○印で囲むこと) | |
| V サービスの成果に関する項目 | | | | |
| 90 | — | ○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | | ②利用者の2/3くらいの |
| | | | | ③利用者の1/3くらいの |
| | | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 91 | — | ○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある |
| | | | | ②数日に1回程度ある |
| | | | | ③たまにある |
| | | | | ④ほとんどない |
| 92 | — | ○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | | ④ほとんどいない |
| 93 | — | ○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | | ④ほとんどいない |
| 94 | — | ○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | | ④ほとんどいない |
| 95 | — | ○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | | ④ほとんどいない |
| 96 | — | ○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | | ④ほとんど掴んでいない |

| 項目番号 | | 項 目 | 取 り 組 み の 成 果 | |
|------|----|--|------------------|---|
| 自己 | 外部 | | (該当する箇所を○印で囲むこと) | |
| 97 | — | ○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない |
| 98 | — | ○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている | ○ | ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない |
| 99 | — | ○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない |
| 100 | — | ○職員は、生き活きと働けている | ○ | ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 101 | — | ○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 102 | — | ○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私たちは下記の理念・基本方針のもと、利用者様に寄り添ったケアを行っています。また病院と併設し、医療・看護との十分な連携ができておりますので、利用者の皆様に安心・安全なサービスを提供しております。

理念

私たちは「今、ここにいる喜び」を感じながら、生活していただけるよう、ひとりひとりのペースに合わせて、寄り添っていきます。

基本方針

- ・利用者様ひとりひとりの尊厳を大切にします。
- ・家庭的な雰囲気の中で、きめ細かな個別のケアを行います。
- ・ご家族様や地域の皆様と力を合わせながら、地域住民の一員としての生活の継続を目指します。
- ・残存能力を引き出し、その能力を最大限に活用するケアを行います。
- ・利用者様と心を通わせながら、笑顔とユーモアの溢れる雰囲気をつくります。
- ・五感（「見ること」「味わうこと」「触ること」「聞くこと」「嗅ぐこと」）に働きかけ、感じる楽しさを大切にしていきます。
- ・小さな変化を見逃さず、安心してより健康的な生活が送れるよう心がけます。